

振田向宿禰の、筑紫国に退る時の歌一首

一七六六番

我妹子は 釧にあらなむ 左手の 我が奥の
手に 巻きて去なましを

抜気大首、筑紫に任せらるる時に、豊前
の娘子紐児を娶きて作る歌三首

一七六七番

豊国の 香春は我家 紐児に いつがり居れば
香春は我家

一七六八番

石上 布留の早稲田の 穂には出でず 心の中
に 恋ふるこのころ

一七六九番

かくのみし 恋ひし渡れば たまきはる 命も
我は 惜しけくもなし